

一 次の各問に答えなさい。

問一 次の――部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなにしなさい。

- 1 フクツウで学校を休む。
- 2 テンランカイを開く。
- 3 お金よりカチのあるもの。
- 4 事業のためのシキンを集める。
- 5 水分は必要フカケツだ。
- 6 イガイとすぐに答えが出た。
- 7 パーティーにショウタイされた。
- 8 友達の意見にサンセイする。
- 9 五十メートル走のタイムをケイソクする。
- 10 雑誌のヘンシュウをする。
- 11 私にとっては易しい問題だ。
- 12 目上の人を敬う。
- 13 文化祭の翌日。
- 14 宝石店を営む。
- 15 八百屋で買い物をする。

問二 次のことわざの空欄に入る漢字一字を書きなさい。

- 1 雨降って□固まる……いざこざが起った後、物事がかえって落ち着きおさまること。
- 2 石の上にも□年……しんぼうすればいつかは成功すること。
- 3 犬も歩けば□にあたる……いろいろなことをする人はそれだけで災難にあうことも多いこと。
- 4 かわいい子には□をさせよ……いとしい子のためには甘やかすより苦勞させた方がよいということ。
- 5 情けは□のためならず……他人に情けをかけておけば、いつかは自分のためになるということ。

う発想をしない。

いろんないきものの生き方をたくさん勉強するいいと思う。ぼくはそれでとてもおもしろかったし、そうすることで、不思議に広く深く、静かなものの見方ができるようになるだろう。

＜④＞

いきものは全部、いろいろあるんだな、あっていいんだな、ということになる。つまりそれが、生物多様性ということなのだと思う。

(日高 敏隆『世界を、こんなふうに見てごらん』より)

問一 次の文が入る箇所を①～④から一つ選び、番号で答えなさい。

しかし、それなりに、どういう苦勞をしているのだろうということを、いろいろ考えてみるのがおもしろい。それは哲学的な思考実験に似ている。

問二

ア ウ に当てはまる接続詞として最も適切なものを選び、番号で答えなさい。

- 1 すると 2 また 3 だからこそ 4 しかし

問三

A に当てはまる言葉として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 科学の力で自然を破壊できる
2 科学の力で自然を制御できる
3 科学の力は自然を制御できない
4 自然の力は科学の力を超える

問四

部1「その意味で、地球温暖化もそう簡単に止められないだろう」とありますが、どういうことですか。次の中からもっとも適切なものを一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 人間が電車を止められはしても全体を動かすことはできないように、自然は複雑で人間の力の及ぶものではないということ。
2 人間は原子力や遺伝子操作ができるようになったが、科学の力で自然を止めたり進めたりすることはできないということ。
3 原子力や遺伝子操作のように人間は自然を止めたり進めたりできるが、他の動物にはそれができず、協力できないということ。
4 科学のおかげで人間はいろいろなことができるようになったが、技術が追い付いていないため自然をコントロールすることまではできないということ。

問五

部2「限られた実験空間」とありますが、これを言いかえた表現を探し、本文中から八字で抜き出しなさい。

問六 部3「そういう認識」とありますが、それはどういうことですか。二つ答えなさい。

問七

B にあてはまる言葉を考えて、十字以内で答えなさい。

問八 本文の内容と一致するものには○、一致しないものには×を、解答欄に書きなさい。

- 1 地球上のあらゆるいきものにはそれぞれ生きる理由があるため、人間の生活は豊かなものとなっている。
2 いきものによって見た目に違いはあるが、どちらが上でどちらが下ということはないから、生物多様性は大切である。
3 飼育箱にいきものを閉じ込めていると、人間が自然をコントロールできると勘違いしてしまうため、飼育箱は使うべきではない。
4 エボフィルスという昆虫は干潮のときは岩場の割れ目に隠れているため、研究のためでなければ見ることはできない。
5 筆者は多様ないきものの生き方や生きる理由を知ること、広く深く、静かなものを見方ができるようになった。
6 クラゲなどの腔腸動物とは違い、人間は他の動物よりも進化していて虫よりも優れた格好をしている。

三 次の文章を読み、あとの各問に答えなさい。

名前を書くのはさし控えるけれど、私がひそかに思いを寄せている女優のCさんが北海道旅行の途中でわが家に寄ってくれることになった。

「うれしいぞ」

私がよろこぶと、

「パパ、よかったね」

娘が抱きついてきた。

すると、サルの紋が歯をむき出して騒ぎ始めた。キキ、ギャツ、とうるさいこと。

「やめてよ。かわいそうよ」

女房が私と娘を分け、

「ね、紋ちゃん。駄目よねえ」

と。サルを慰めた。

最近、世話するのはほとんど女房だが、どういうわけか紋は私と女房になついている。私たち二人には、決して反抗しない。

なついているのは結構なことだが、私と女房がだれか他の人を抱いたりすると大変だ。猛烈な勢いで怒り、離れるまで騒ぐ。サルは人に近縁であるだけに、ヤキモチの反応も鮮明のようだ。ことに私と娘とが仲よくすると、死ぬのではないかと思えるほどわめきたてる。

さて、Cさんが釧路空港に着く前夜、私は煙草をふかし、お茶をがぶ飲みし、ひとりで暮を並べた。

と、深夜、娘がとびこんできた。

「パパあ、お雪様よ」

「なに！」

「降ってきたわ」

「嘘だ。悪い冗談だ。雪が降るわけがないじゃないか。今日は夕焼けがきれいだったし、さっきまでまん円い月が出てたぞ」

「だって……」

²娘は首をすくめた。

雪が降ると、学校が休みになる。だから彼女にとってはお雪様なのだが、あまりひどいと飛行機が飛ばず、私の待人がこないことになる。喜ぶべきか悲しむべきか、どちらとも決めかねて、首をすくめてしまったのである。

私はスタンドの首をまわして、書斎のカーテンを開けた。

「うーむ」

「ね！」

「うーむ」

私は再度うなった。

すごい雪。

いや、^aというより、氷の粒といったほうがいいかも知れぬ。スタンドの光の中で、金色の細かな粒が、静かに、そして大量に、上から下へと移動している。湯沸岬の霧笛も鳴り始めていた。

「きれいだなあ」

「うん」

「こいつは積もるぞ」

「ね。お雪様でしょう」

「百万円賭けてもいい。明日は学校、休みになる」

「あたり前よ。学校のおんぼろスクールバス、雪が十五センチ積もったら動かないんだもの。皆、かっぺバスと呼んでるの」

「田舎っぺバスの略だな」

「そう」

バスはまだいい方だ。動かなければ休校にすればいいから。ひどいのはその校舎である。雨もりはするし、吹雪の日には雪が吹きこむ。それどころか、二階の図書室には一度に六人以上がっぺはならないことになっているそうだ。今にも床が抜けそうだから。

書斎には^bがいないので、私はおおっぴらに娘と肩を組んだ。

「おい、歌おう」

「いいわよ」

「雪が降るウ」

^c「わりといい声じゃん」

「バカモノ。わりと——とは何だ。生まれた時からいい声だア」

雪は気が遠くなるほどの密度で降り続けている。見る間に十センチ。

私は^cに会うのをあきらめて、布団にもぐりこんでしまった。

とろとろとまどろんだと思ったら、また娘がとびこんできた。

「パパあ」

「う。うん」

「大変よ。すごい雪」

「飛行機は」

「駄目、駄目。ママが空港に問い合わせたら、いつ飛ぶかわからないだって」

「そんじゃ——さよなら」

また布団にもぐりこむと、娘が大声で、

「ナギがいないんだって」

「なんだと」

「阿子と寒太が雪に埋まってるわ」

「そりゃ大変だ」

はね起きて外を見ると、雪はやんでいたが、風が出て、粉雪を空高く吹き上げていた。

「あのね、書斎の玄関、雪が吹きだまっていって入れないの。窓から入ってきちゃった」

「ふんふん」

手早く着替えて、長ぐつをはき、玄関のドアに内側から体当たり。二度、三度。ぶつかる度に、雪がきしみ、ほんの数センチずつドアが開く。

やっとドアを開け、⁴「ラッセルしながら母屋へ行くと、皆、上気した顔でにこにこしている。うれしくってたまらないという感じた。

「ムツさん」

「はいはい」

「あれ！」

指さす方をのぞくと、裏庭で、阿子と寒太、それに笛子、エゾシカの親子がうずくまっていた。もう真っ白。寒太の角の一部と、時どき開ける目が黒いだけだ。

「^dがいなかったのですよ」

と、純子君。

ナギはアイヌ犬だ。他の犬と折り合いが悪いので、別の広い囲いに入れてある。

「それで？」

「行ってみたら、ただ白いだけ」

「うん」

「ナギと呼んでも、しんとしました」

「ふんふん」

「吹きだまりが出来てるので、他の犬が囲いを乗り越えて入り、咬み殺したのじゃないかと思ったりして、青くなって呼んでいたら、金子さんがきて、一緒にナギ、ナギって呼んでくれたの。そしたら、吹きだまりにぽっかり穴が開いて、中からナギが元気にとびだしてきました」

「ふむ雪洞か……。雪の中のほうが暖かいんだな。それを本能的に知ってるんだよ」

「そうでしょうかね」

そこへヒロ子君がとびこんできた。

「ムツさん」
「はいはい」
「キツネがいません」

「呼んでみたか」
「ええ、もちろん」
「大声でか」

「あそこ、駄目でした。ちょうど雪が吹きだまる地形で、柵が見えないくらいになっているので、きつと逃げちゃってるのだと思います」

「足跡は」
「この風ですもの」
「それもそうだなあ」

「ロボはいるのですけど……。コンがどう探してもいないのです。吹きだまりを、今までスコップで崩していたのですけど」
「ううむ」

私は腕を組んだ。

コンはオスで、ロボはメス。今年こそは育児のデータをとりうと、よく慣らして、特別の囲いに入れたキツネであった。

空はまだなまり色。まだひと荒れきそうな気配だった。

(畑 正憲『ムツゴロウの事件簿』より)

※1 ラッセル……雪が深いとき、雪をかきわけながら進むこと。

問一 — 部A～Dは誰の言葉ですか。次の中から適切なものをそれぞれ選び、番号で答えなさい。ただし、同じ番号を何度使ってもかまいません。

- 1 私
- 2 Cさん
- 3 娘
- 4 紋
- 5 女房

問二 — a d には、どの語が入りますか。次の中から適切なものをそれぞれ選び、番号で答えなさい。ただし、同じ番号を何度使ってもかまいません。

- 1 私
- 2 パパ
- 3 Cさん
- 4 娘
- 5 紋
- 6 女房
- 7 雪
- 8 ナギ

問三 — 部1「サルの紋が歯をむき出して騒ぎ始めた」とありますが、紋はなぜこのような行動をとったのですか。次の中から最も適切なものを選び、番号で答えなさい。

- 1 「私」と「娘」が仲よくしていることを、「女房」と紋はよく思っていないから。
- 2 紋は「私」にしかついていないため、「娘」のことは受け入れられなかったから。
- 3 「私」と「女房」と「娘」が仲よくしていたため、紋はヤキモチをやいたから。
- 4 紋は「私」になついていて、「私」が他の誰かを抱いたりするとヤキモチをやくから。

問四 — 部2「娘は首をすくめた」とありますが、このときの「娘」の気持ちとして適切なものを次の中から二つ選び、番号で答えなさい。ただし、解答の順序は問わない。

- 1 「私」を驚かせようとしたのに、信じてもらえずに悲しい気持ち。
- 2 学校が休みになるかもしれないということが喜ばしい気持ち。
- 3 「私」の願いが叶わないかもしれないと、悲しい気持ち。
- 4 雪が降ってきたため、興奮して嬉しい気持ち。
- 5 雪が降ってきたという冗談がばれてしまい、ばつの悪い気持ち。

問五 — 部3「ね！」とありますが、このあとに省略されているのはどのような言葉ですか。次の空欄にあてはまる言葉を考えて十字以内で答えなさい。

「ね！()でしょ」

問六 — 部4「皆、上気した顔でにこにこしている」とありますが、皆がにこにこしているのはなぜですか。その理由が分かる一文を探し、はじめの三字を答えなさい。

問七 — 部5「私は腕を組んだ」とありますが、この時の「私」の心情として最も適切なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 女優Cに会えないかもしれないという状況になり、怒っている。
- 2 飼育している動物たちがいなくなり、損をした気分になっている。
- 3 アイヌ犬が行方不明になったことで、悲しい気持ちになっている。
- 4 大雪によってキツネの行方がわからなくなり、悪い予感がしている。

二〇一八年度

入学試験 国語 解答用紙

受験番号	
氏 名	

得	点

一

問一

1
2
3

4
5
6

7
8
9

10
11
しい
12
う

13
14
む
15

1
2
3
4
5

二

問一

問二
ア
イ
ウ

問三

問四

問五

問六

三

問七

問八

1
2
3

4
5
6

問一

A
B
C
D

問二

a
b
c
d

問三

問四

問五

問六

問七
